

2020(令和2)年度後期授業アンケート報告書

研究教育開発センター

I 授業アンケートについて

1 授業アンケートの目的

- (1) 学生が各授業をどのように見ているかという観点からの情報収集と教員個々の気づきを目的とし、それらを各授業の質の向上につなげること。
- (2) 学生の授業参加への意識を高めること。
- (3) 講義室の施設・設備の改善等。

2 授業アンケートの実施概要

(1) 授業アンケートの対象科目

2020(令和2)年度後期に開講している全授業科目(演習と実習を除く)を対象に実施。

(2) 授業アンケートの実施時期

2020(令和2)年12月17日(木)～2021(令和3)年1月27日(水)

(3) 授業アンケートの実施方法

学生はパソコン・スマートフォン等による学生ポータル(LiveCampus)での回答。

(4) アンケート回答状況

回答率: 33.8%(7,451名/対象者22,021名)

(5) 授業アンケートの質問項目

授業内容に関する設問は以下の7項目となっている。

- ①授業全体の目標は明確でしたか。【目標の明確さ】
- ②授業に対する教員の意欲が感じられたと思いますか。【教員の意欲】
- ③この授業では、教材などの事前準備がしっかり行われていましたか。【準備の周到さ】
- ④教員の話し方は明瞭で聞き取りやすいと思いましたか。【明瞭な話し方】
- ⑤この授業は、学習しやすい環境が保たれていましたか。【環境の整備】
- ⑥学びに対する意欲をかきたてられましたか。【学習意欲の喚起】
- ⑦この授業を学して満足しましたか。【総合満足度】

Ⅱ 授業アンケート結果の分析・総括について

1 選択式によるアンケート（5段階評価）

※授業内容に関する大学・学部・学科の具体的な集計値はP 4・5に掲載。

（1）全体的傾向（大学全体の平均値）

- ①令和2年度後期の授業は、新型コロナウイルスの感染防止・予防のために後期講義期間中の約25.5%をオンライン授業で実施した。Zoom等を使った授業ではなく、課題研究型の授業が主であったが、学生の評価は、令和元年度に比べ、すべての設問で高い評価となっており、満足度が上がっている。特に⑤【環境の整備】は0.07ポイント高くなっている。この傾向は、令和2年度前期と同様となっている。
- ②大学全体では、総合満足度の指標となる⑦【総合満足度】の平均は4.51であり、学生は授業におおむね満足している。その他の設問の回答の平均も4.39以上であることから、総じて学生が授業を高く評価していることがうかがえる。
- ③教員の意欲や準備について問う②【教員の意欲】や③【準備の周到さ】の平均は4.64以上で、他の設問よりも相対的に高い評価を得ている。令和元年度も同様の結果となっており、高い評価となっている。
- ④令和2年度前期と比べると、④【明瞭な話し方】の評価が0.06ポイント高くなっている。

（2）学部・学科別傾向（授業担当者の所属別平均値）

①経済学部（経済学科・経営学科）

- ア 両学科とも、すべての設問において平均が4.00以上であり、おおむね良好な評価を得ている。とはいえ、すべての設問において大学全体の平均を下回り、学生の評価が相対的に低くなっている。
- イ 大学全体と比べると、経済学科はすべての設問で0.15～0.22ポイントと大幅に評価が低くなっている。また、経営学科も0.07以下で評価が低くなっている。
- ウ 両学科を比較すると、差は令和2年度前期に比べて拡大し、③【準備の周到さ】、⑤【環境の整備】以外は0.1ポイントを超える差がある。
- エ 令和元年度と比べると、経済学科は②【教員の意欲】のみ0.03ポイントが低くなっている。一方で経営学科は、すべての設問で評価が高くなっており、最大で⑥【学習意欲の喚起】が0.2ポイント高くなっている。

②福祉社会学部（社会福祉学科・児童学科）

- ア 両学科とも、すべての設問において平均が4.50以上であり、令和2年度前期と同様に、非常に良好な評価を得ている。
- イ 大学全体との比較では、すべての設問で大学全体の平均を上回っている。

ウ 授業を総合的に評価する⑦【総合満足度】は、両学科とも 4.62 以上であり、令和 2 年度前期と同様に学生は授業に対して非常に満足しているといえる。

エ 令和 2 年度前期と比べて、社会福祉学科はすべての設問で評価が高くなっているのは対照的に、児童学科はすべての評価が低くなっている。

オ 令和元年度と比べて、すべての項目で高くなっている。特に、社会福祉学科の②【教員の意欲】で 0.19 ポイント高くなっている。

③国際文化学部（国際文化学科・音楽学科）

ア 両学科とも、すべての設問において平均が 4.00 以上であり、おおむね良好な評価を得ている。令和 2 年度前期同様、大学全体の平均と比べて国際文化学科の一部の設問を除けば、おおむね上回っている。

イ 授業を総合的に評価する⑦【総合満足度】は、両学科とも 4.37 以上であり、学生は授業に対しておおむね満足しているといえる。

ウ 音楽学科においては、すべての設問で大学全体の平均に比べて、0.13 ポイント以上高い評価となっている。

エ 令和 2 年度前期と比べて、国際文化学科はすべての設問で評価が低くなっている。一方で音楽学科は、すべての設問で評価が高く、⑦【総合満足度】は 0.13 ポイント高くなっている。

オ 令和元年度と比較も上記と同様の結果となっている。国際文化学科は、で⑥【学習意欲の喚起】で 0.19 ポイント低く、音楽学科では③【準備の周到さ】が 0.14 ポイント高くなっている。

授業内容に関する大学・学部・学科別の平均値

アンケート設問Ⅲの設問①～⑦について、5段階評価の平均値を大学全体・学科別に表にまとめた。ここでは、前期と後期を比較しているが、それぞれにおいて全く同じ科目が開講されているわけではないことに留意されたい。

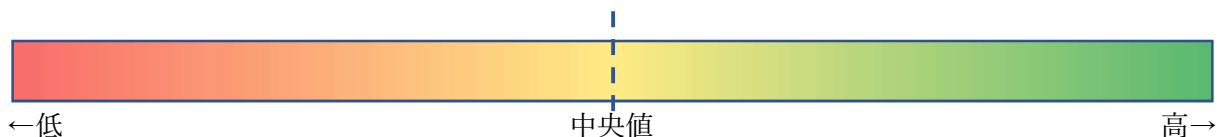
5段階評価の内容は、次のとおりである。

5：そう思う 4：どちらかといえばそう思う 3：どちらとも言えない
2：どちらかと言えばそう思わない 1：そうは思わない

設問①～⑦は、次のように略記する。

①【目標の明確さ】 ②【教員の意欲】 ③【準備の周到さ】 ④【明瞭な話し方】
⑤【環境の整備】 ⑥【学習意欲の喚起】 ⑦【総合満足度】

表は、評価傾向を把握しやすいよう、次のカラースケールを用いて着色した。



着色の範囲は、①大学全体、②全学科の2領域としている。

設問	大学 全体	経済学部		福祉社会学部		国際文化学部	
		経済学科	経営学科	社会福祉学科	児童学科	国際文化学科	音楽学科
①授業全体の目標は明確でしたか	①	②					
②授業に対する教員の意欲が感じられたと思いますか							
③教材などの事前準備がしっかり行われていましたか							
④教員の話し方は明瞭で聞き取りやすいと思いましたか							
⑤学習しやすい環境が保たれていましたか							
⑥学びに対する意欲をかきたてられましたか							
⑦この授業を受講して満足しましたか							

2020（令和2）年度後期授業アンケートの5段階評価の平均値

設問	大学 全体	経済学部		福祉社会学部		国際文化学部	
		経済学科	経営学科	社会福祉学科	児童学科	国際文化学科	音楽学科
①授業全体の目標は明確でしたか	4.55	4.37	4.48	4.65	4.66	4.42	4.68
②授業に対する教員の意欲が感じられたと思いますか	4.64	4.42	4.61	4.70	4.71	4.62	4.81
③教材などの事前準備がしっかり行われていましたか	4.67	4.52	4.61	4.73	4.73	4.64	4.83
④教員の話し方は明瞭で聞き取りやすいと思いましたが	4.50	4.31	4.46	4.65	4.58	4.37	4.67
⑤学習しやすい環境が保たれていましたか	4.57	4.41	4.51	4.67	4.66	4.48	4.73
⑥学びに対する意欲をかきたてられましたか	4.39	4.18	4.32	4.54	4.52	4.21	4.57
⑦この授業を受講して満足しましたか	4.51	4.30	4.46	4.63	4.62	4.37	4.66

2019（令和元）年度後期授業アンケートの5段階評価の平均値

設問	大学 全体	経済学部		福祉社会学部		国際文化学部		
		経済学科	経営学科	社会福祉学科	児童学科	国際文化学科	音楽学科	人間文化学科
①授業全体の目標は明確でしたか	4.51	4.35	4.38	4.46	4.61	4.56	4.64	-
②授業に対する教員の意欲が感じられたと思いますか	4.59	4.45	4.49	4.52	4.68	4.66	4.68	-
③教材などの事前準備がしっかり行われていましたか	4.62	4.49	4.53	4.54	4.69	4.70	4.69	-
④教員の話し方は明瞭で聞き取りやすいと思いましたが	4.46	4.30	4.32	4.44	4.53	4.55	4.61	-
⑤学習しやすい環境が保たれていましたか	4.50	4.34	4.35	4.47	4.59	4.54	4.63	-
⑥学びに対する意欲をかきたてられましたか	4.33	4.14	4.12	4.35	4.44	4.40	4.48	-
⑦この授業を受講して満足しましたか	4.45	4.25	4.29	4.44	4.56	4.49	4.61	-

2 自由記述式回答

(1)「良い点」(全体的傾向)

①授業準備・開始段階での配慮

事前の授業準備(予習課題等)の具体的な指示／アイスブレイクなどの雰囲気づくり
将来(就職)を見据えた講義の意義説明／授業のはじまりにする簡潔な復習

②教材等に関する配慮

見やすく分かりやすい資料／書き込み式で分かりやすいプリント／資料が豊富／分かりやすいパワーポイント／興味深い動画の活用／ノートする時間の確保

③授業内容・形態に関する配慮

イメージが湧きやすい身近な話題の提供／グループワークによるディスカッション／プレゼンテーションの機会／外部講師による講義／講義終盤に課す確認問題／実践的な模擬授業／グループワークでのコミュニケーション力の育成や積極的な授業参加

④学生との接し方、話し方に関する配慮

質問しやすい環境づくり／意見・質問へのコメント返却／スマートフォン使用への適切な対処／親しみやすい口調／個別の丁寧な指導

⑤その他

役に立つレポートの書き方指導／毎回の課題や小テスト／細かな成績評価

(2)「改善を要する点」

①授業計画の不明瞭さ、授業準備の不足

シラバスからの逸脱／資料がない授業／1回分の授業には詰め込みすぎの内容／出所不明のデータ(資料)の使用／適切な指示のない事前学習／目的が不明確な授業

②話の聞き取りづらさ

速すぎる話すスピード／小さい話し声／悪い滑舌／マイクの不使用

③板書、スライド等の見づらさ

小さい、汚い板書の文字／文字の小さい配付資料／パワーポイント資料の未配付／画面切り換えが早いパワーポイントでの説明／読みにくいパワーポイントの文字

④授業内容の分かりづらさ

分かりにくい説明／学生の理解を確認せずに進行する授業／学生のレベルに合わせていない授業／板書をノートに記録させるだけの授業

⑤学生への対応について

私語に対する注意／出席確認の厳格化の要望／広い教室での学生の座らせ方(前方から詰めて)／日本語での授業を理解できていない留学生への対応

⑥教員の態度について

授業の遅刻／感情的な発言／授業と関係ない話の多さ／性別や人によって異なる対応

⑦その他

しっかりとした出席確認／グループワークに参加できない留学生の対応／多すぎる課題／時間に終わらない授業の対応

(3) 自由記述回答の総括

令和2年度後期の学生の自由記述から見て取ることのできる「良い授業」の条件とは概ね以下のとおりである。

- ①授業の目的や意義を明示しており、予習等を具体的に指示し、授業中に簡潔な復習や意見・質問へのコメントを返却する。
- ②見やすい板書を心掛け、パワーポイントや映像教材を適切に使用する。
- ③学生の理解を確認しながらレベルに応じた内容の説明を丁寧に行う。
- ④グループワークやディスカッションなどのアクティブラーニングを取り入れる。
- ⑤私語やスマートフォン、出席管理に厳格に対応し、公平かつ快適な学習環境の維持に努める。

1つの授業で上記のことすべてを完璧に実行することは困難であろうが、授業を評価・点検し改善するうえで参考になるモデルといえる。

しかし、学生の声を真摯に受け止めねばならないのは当然のことであるが、これらを全て鵜呑みにすることは、授業の内容のレベル低下、学問的意義の喪失、大学への甘えや増長などにつながりかねない。従って、学生の要望については慎重に取捨選択し、授業改善に臨むべきと思われる。

上記の取捨選択は、各教員の手腕が問われるであろう。

また、令和2年度後期の授業アンケートでは、コロナ禍における授業に対して学生はどのような意見や考えを持っているかを知るために、自由記述の欄に新たに「新型コロナウイルス感染症の影響で、今学期は数度にわたりオンライン授業を実施しました。この授業でのオンライン授業を実施しましたが、あなたはどのように取り組みましたか。また、オンライン授業を受けるにあたって、大学・教員からどのような支援があればよいと思いますか。」を設けた。

多くの意見が寄せられたが、その代表的なものは以下のような内容であった。

- ①対面授業が一度も実施されず、試験もレポートで済まされてしまったことに不満を感じた。
- ②履修した意味がないので、授業料の一部返還を求めたい。
- ③対面授業を増やしてほしい。
- ④LINE は利用しづらい。ポータルやメールシステムに変更して欲しい。moodle よりもLiveCampusの方が使いやすい。
- ⑤Google ドライブの授業映像を見直したい時に確認できなかったので、映像授業の公開時間、日数をもっと伸ばして欲しい。
- ⑥遠隔授業の種類が多岐にわたっているので、分かりづらかった。
- ⑦パソコンやスマホの有無で授業を受ける環境に差が出て来ていることが気になる。

これらの意見を集約するならば、レポート課題を中心にした課題研究型より、オンライン授業、特にZoomを利用した授業を望む声を多かったといえる。

令和2年前期の報告でも述べたが、このような要望、不満及び懸念を解消するためには、教員のZoom等のスキル修得の研修会開催や学生への課題研究型の授業の必要性の説明、通信環境の整備といったことを進めていく必要がある。

以 上